



花井増實さん
愛知県弁護士会会長

2014年
日本国憲法下の社会秩序の破壊に繋がる一人ひとりが意見を発信し世論形成を！
【8月号】



河田昌東さん
チェルノブイリ救援・中部

価値観の転換こそ未来をつくる チェルノブイリを教訓に未来に種をまこうー福島復興・菜の花プロジェクト
【5月号】



瀬瀬和義さん
愛知県弁護士会会長

2013年
弁護士が憲法を語らずして誰が語るのかー弁護士の使命
【2月号】



益川敏英さん
物理学者・2008年ノーベル物理学賞受

戦争法案・国民の怒りを爆発させよう！
【8月号】



大内裕和さん
(中京大学国際教養学部教授)

奨学金・ブラックバイト日本の未来にかかわる問題
【3月号】



石田芳弘さん
元犬山市長

2015年
戦争をする国NO！恐れることなく声をあげよう！
【2月号】



福山真劫さん
総がかり行動実行委員会共同代表



安藤隆徳さん
中部大学教授

時代の右傾化に対抗して、平和・民主主義・憲法擁護・確立を
【10月号】

市民が登場し、声をあげた！この流れが社会を変える
【8月号】



五島良子さん
シンガーソングライター

2016年
初めてデモに、同じ思いのひと繋がった
【2月】



もとむら強さん
武豊町議・創価学会員



垣見信夫さん
津島市議会議員

2018年
世界にから核をなくすことが私たちの使命
【3月】



三輪隆裕さん
日吉神社宮司



諏訪哲史さん
芥川賞作家

2017年
全体主義に迎合するわけにはいかない 寛容さとなえず検証し省みる力を
【1月号】



藤田早苗さん
英国エセックス大学人権センターフェロー

2019年
日本の問題を国連に提供、国際世論に
【2月号】



前川喜平さん
前文部科学省事務次官

日本の政治の危機に声をあげていこう！
【11月号】



大脇雅子さん
弁護士

「武力によらない平和」を対話と寛容で
【8月号】



上井靖さん
八王子中学校元校長



具ゆりさん
フラワーデモ名古屋呼びかけ人

2020年
被害者によりそう#MeTooの声を！
【4月号】



キムソギョンさん
彫刻家

平和の少女像 人権・平和に貢献を
【11月号】



金城美幸さん
パレスチナ地域研究

歴史を学び直す「未来に繰り返さない」記憶の形成を
【9月号】



下澤悦夫さん
元裁判官

平和憲法の精神を日本社会に！使命をもって
【4月号】

**革新・愛知の会アピール——
新型コロナ感染拡大を防ぎ、いのち・暮らし・雇用・安全安心を最優先にした緊急対策の早期実現を強く求めます**
2020. 4. 25
革新・愛知の会代表世話人会

新型コロナ世界的大流行に！

世界全体では感染者は24万8千人を超え、死者も18万人に達しています(4/23)。アメリカでの感染者は全世界の三分の一を占め、ヨーロッパでも医療崩壊が進行しています。

安倍政権の対応の転換を——自粛には補償を！

安倍政権はコロナ対策よりもオリンピック開催を重視、国民のいのちよりも経済活動を優先するなど感染対策は後手後手となり、大都市中心に感染はいまや日本列島全体にひろがっています。

日本社会全体が苦難に陥っている時だからこそ、政治の果たす役割が問われています。

安倍政権は人との接触を8割減と自粛要請しています。そのためには、暮らしが成り立つ補償をきちんとすすめるべきです。野党と国民の声に押されて一人10万円の給付金の支給はスピーディに実施をすべきです。窓口となる各自治体への財政的な支援が必要です。同時に生活と事業を支えるための継続的な補償も行うべきです。

また、韓国などで行われているドライブスルー方式もふくめてPCR検査の検査数を大幅に増やし感染の広がりを把握することが必要です。安倍政権は今こそいのちを守ることを最優先にした思い切ったウイルス対策を行うべきです。全力を挙げてPCR検査の予算を付け検査を行い、感染者への正確な対応で感染拡大を減らし、医療崩壊をさけることこそ、経済再生への道です。

新自由主義によるグローバル資本主義のなかで、ウイルスは瞬間に世界に広がりました。歴代自民党政治による医療費削減、予防医学・公衆衛生軽視、保健所・病院の統廃合など公共性を無視した市場主義化が、今、人々のいのちと暮らしをおびやかし、日本の医療を危機に直面させています。

コロナを利用した憲法改正策動を許さず、野党共闘のいっそうの前進を！

超党派の国会議員が厚労大臣にPCR検査体制の抜本的拡充と医療従事者や医療機関の感染防止体制強化の申し入れをおこないました。安倍政権はコロナ禍にもかかわらず国会では「年金制度改正法案」や「検察庁法改正案」の成立を推し進めています。

コロナ禍を利用し憲法に緊急事態条項を入れるための憲法改正策動を許してはいけません。野党連合政権構想をかかげた本気の「市民と野党の共闘」を強く発展をすすめましょう。

国民が求め、憲法が示す、命とくらしを最優先にする政治を実現させましょう。

ろか理屈もない政治に終始しています。
9条改憲論議、日米同盟の強化、集団的自衛権の決議、国内では閣僚・議員の不祥事や贈収賄事件、「桜を見る会」や東京高検検事長の人事をめぐる「すり替え」、「なし崩し」の政治が跋扈するなか、「アベ政治を許さない」のシュプレヒコールが街頭デモで轟き、全国規模で革新懇は運動の前面に立つてきました。

しかし、最近、私はもはや「アベ政治を許さない」に加え、「アベ政治、もうたくさんだ」のスローガンの方がインパクトが強いのではないかと考えています。「もうたくさんだ」は2011年の「アラブの春」で若者が長期独裁政権に投げつけたものでした。アラビア語のキフアーヤ(كيفاريا)も「もう十分だ」はエジプトのムバラク政権の打倒を実現しました。それ以前、セルビアではミロシエヴィッチ強権政治打倒に際しドスタ(Đoković)も「もうたくさんだ」の標語がデモを埋めました。

「アベ政治もうたくさんだ」は国民の怒りや失望にとどまらず、国民主権を掲げる政治がこれでは「情けない」との私たちの政治意識から発するものであり、主権者の名においてこの政権は変えなければならぬ、自分たちにふさわしくない政権だという、責任意識の表明でもあると思うのです。

「歴史との対話」と「政治の世界」について考える
私は現在勤めている大学で、全学共通の授業科目「歴史との対話」と「政治の世界」を担当しています。思うに、日本人は歴史に向き合い、対話することが苦手な国民かもしれません。歴史は「もうすんだ出来事」であり既成事実として、いまさら対話しても「仕方のない過去」という捉え方が強いようです。「歴史は流れる」もので、時代時代で民衆も加わってみんな「作り上げる歴史」という意識が稀薄です。歴史は変えようのないもの、歴史は指導者から与えられるものという認識では、歴史の教訓を見つけていくことは難しいと思うのです。

しかし、私たちは現代がどのような歴史をふまえてどこへ向かっていく時代なのかという方向性を明確にとらえ、さらにその方向を導いている時代の勢い、言いかえればどのような力と力がぶつかり合っているのかをつかむことが大切です。こうした歴史のもとで政治も展開しているのです。私たちは、政治は権謀術数と権力闘争が暗躍する世界であり、私たちの与り知るところで政治が進んでいくと考えがちです。

しかし、私たちの存在自体が100パーセント歴史的であり政治的であると思ふのです。私たちは、歴史的の現段階のなかで、政治的現実を生きていくしか方法はありません。「私たちは自分たちに相応しい政治しか持つことができない」と学生時代に習ったことが思い出されます。主権者である国民が権力と緊張関係に立つて、時代の政治的決断と格闘し、よりよい時代へと未来にむけて切り拓いていくとき、また社会の仕組みがそのように作られているのだと自覚するとき、歴史と政治に向き合う「張り合い」がうまれてくることは間違いありません。この活力をうみだすことができれば、もっともったい日本、信頼される日本になると思います。